

蔵元を訪ねて 青森・八戸酒類



本社外観

青森県南部の八戸市、大正モダンニズムの香りを残す歴史的建造物に本社を置く八戸酒類。同市に構える「八鶴工場」、隣接する五戸町に構える「五戸(如空)工場」の2拠点でそれぞれ代表銘柄「八鶴(はちつる)」「如空(じょくう)」を造っている。地域に根ざした「こ」でしか飲めない地酒を、展開する同社のこれまでの歴史や両銘柄の個性や取り組みについて紹介する。

蔵の特性活かした「八鶴」「如空」

創業は1786年(天明6年)、初代橋本八右衛門氏が酒屋を買い取り、現八鶴工場で始めた酒造りが起点となる。フラグシップである「八鶴」が発売されたのは1919年(大正8年)の事だった。

1921年(大正10年)には屋号「河内屋橋本合名会社」として法人化。

1944年(昭和19年)に八戸とその周辺の酒造が集まり八戸酒類株式会社を設立。以降、「八鶴」に続く「如空」の登場や全国新酒鑑評会での金賞受賞など、同社杜氏の技術に裏打ちされた確かな酒質がその名を広げてきた。

地酒の酒蔵として「こ」でしか飲めない「地」元で愛され、絶えず日々の食卓に寄り添う銘柄として八戸に根差した商品を展開。「人口減少などを背景に消費量が減る中でも地元へ根差したスタンスで取り組みを続けている」(同社)。

五戸(如空)工場で造る「如空」は、五感で醸す手造り、低温長期型発酵の南部流儀と協会10号

地域に根差し、日々の食卓に寄り添う酒を展開

酵母にこだわり、「ピュアで端麗」「ふくよかな旨み」「喉越しのいい後味」をさらに磨き、五戸ならではの新しい地酒の旨さに挑戦している。

主力銘柄である「如空」は、「同 純米吟醸」「同 特別純米酒 金ラベル」「同 純米酒 銀ラベル」「同 特別純米生貯蔵酒」などをラインアップ



蔵元直売所

醉母にこだわり、「ピュアで端麗」「ふくよかな旨み」「喉越しのいい後味」をさらに磨き、五戸ならではの新しい地酒の旨さに挑戦している。

1944年(昭和19年)に八戸とその周辺の酒造が集まり八戸酒類株式会社を設立。以降、「八鶴」に続く「如空」の登場や全国新酒鑑評会での金賞受賞など、同社杜氏の技術に裏打ちされた確かな酒質がその名を広げてきた。

「同 特別純米酒 金ラベル」「同 純米酒 銀ラベル」「同 特別純米生貯蔵酒」などをラインアップ

「同 特別純米酒 金ラベル」「同 純米酒 銀ラベル」「同 特別純米生貯蔵酒」などをラインアップ

酒」として協会10号酵母発祥蔵ともいわれる八鶴工場で造られている。「八鶴金撰」「同 銀吟醸」のほか、季節限定の「三戸のどんぶり 純米にこり酒」や地域限定酒なども手掛ける。

水にあるという。「八鶴工場は硬水でいわゆる「酒好き」向けのしつかりとした味わいが特徴。如空工場は八鶴に比べ軟水で、やわらかく飲みやすい仕上がりとなること

「同 特別純米酒 金ラベル」「同 純米酒 銀ラベル」「同 特別純米生貯蔵酒」などをラインアップ

また、地元中心ではあるものの、東京をはじめとする首都圏へ向けての発信も行っている。特性を受け入れてくれる酒販店や料飲店との取り組みのほか、輸入ワインなどを手掛けるモトックスとの共同開発商品「りんごぼむぼむ」といった新規需要開拓にも意欲的だ。

現在は前身である「河内屋橋本合名会社」が事務所として使用していた

個性の異なる「如空」「八鶴」の大きな違いは

「同 特別純米酒 金ラベル」「同 純米酒 銀ラベル」「同 特別純米生貯蔵酒」などをラインアップ

大正モダンニズムの香りを残す建物に本社と蔵元直売所を構えている。

1924年(大正13年)の八戸大火の直後に建てられたものを、1998年(平成10年)に再建した建造物だ。

